

JR東日本では環境保全活動を計画的に進めるため、具体的な数値目標を設定して取り組んでいます。直近の目標として2005年度達成目標を定め、取り組んできましたが、2003年度実績において数値目標11項目中6項目を達成し、そのほかについても概ね順調に推移していること、また、グループ全体の環境管理を強化する必要があることを踏まえ、2005年1月に2008年度達成目標(21ページ参照)を新たに定めました。従来の目標数値をさらに高く設定するとともに、新たにJR東日本グループとしての目標も設定しています。今後「事業活動と環境保護の両立」に向け、具体的なビジョンをもって挑戦していきます。

▶ 環境に関する基本的な考え方

環境に関する基本的な考え方は?

JR東日本グループは、1992年に「事業活動と環境保護の両立」という基本理念を制定しました。この理念のもと、行動指針および数値目標を定め、具体的な環境保全活動に取り組んでいます。

エコロジー推進活動への2つのアプローチ

環境負荷の小さな鉄道を創る

事業活動により生じる環境負荷の低減を図るため、車両の省エネルギー化やゴミのリサイクルなど、さまざまな取り組みを進めています。

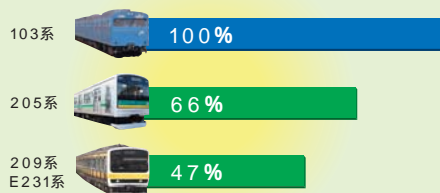
ご利用いただきやすい鉄道を創る

ほかの輸送機関と比較して、単位輸送量あたりの環境負荷が低いという鉄道の環境特性を最大限発揮できるよう、自動車と鉄道を組み合わせた移動形態であるインターモーダルなどの取り組みを進め、交通機関全体の環境負荷低減をめざしています。

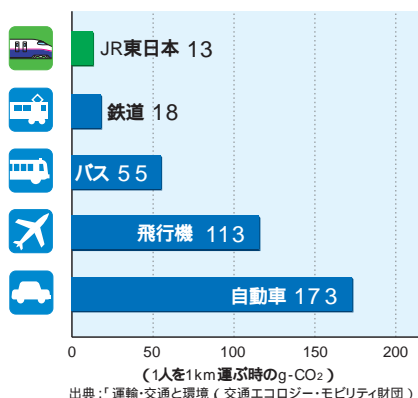
JR東日本では、事業活動の特性を活かし、以下の2つのアプローチで環境への取り組みを進めています。

▶ 系式別電力消費量の比較

103系を100%とした場合

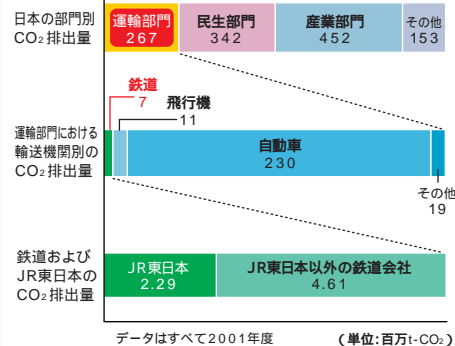


▶ 乗り物から出るCO₂の量



日本のCO₂排出量の現状とJR東日本の認識

2005年2月に京都議定書が発効し、CO₂排出量の削減は日本の喫緊の課題となっています。鉄道は単位輸送量あたりの環境負荷が少ないとはいえ、鉄道業界のCO₂排出量におけるJR東日本の占める割合は大きく、さらに環境負荷低減に努める必要があると認識して取り組んでいます。



▶ エコロジー推進活動の基本理念・方針

基本理念(1992年5月制定)

JR東日本グループは一体となって
事業活動と環境保護の両立に
真摯な姿勢で取組みます

基本方針(1992年5月制定)

私たちは、快適な環境の提供を通じて
お客様や地域社会に貢献します
私たちは、地球環境保護のための
技術の開発と提供に努めます
私たちは、常に環境保護に関心をもち一人ひとりの
環境保護意識の向上を図ります

▶ エコロジー推進活動の行動指針と目標

行動指針(1996年3月制定)

1. 私たちは、エネルギー使用の一層の効率化や、よりクリーンなエネルギーの導入により、貴重な資源の浪費を防止し、地球温暖化の原因となるCO₂の排出量の削減に努めます。
2. 私たちは、環境汚染物質やオゾン層を破壊する物質等を法令等に基づいて適正に管理、処理するとともに、可能な限りその削減や代替物質への転換を進めます。
3. 私たちは、地球の浄化能力の負担を軽くするため、オフィスや事業所、駅、列車等からの様々な廃棄物を適正に処理するとともに、リサイクルとその削減に努め、また再生品、省資源製品の使用拡大に努めます。
4. 私たちは、多様な生命を育む自然環境を大切にするとともに、列車走行による騒音や振動などの低減に努め地域社会との調和を目指します。
5. 私たちは、地球環境にやさしい乗り物としての、鉄道の魅力の向上に努めます。

2008年度達成目標¹

(1996年3月制定、2000年11月改定、2002年9月一部改定、2005年1月改定)

JR東日本単体

	2008年度目標	2005年度目標(参考)
事業活動に伴うCO ₂ 総排出量	22%削減	20%削減
自営火力発電所からの単位発電量あたりCO ₂ 排出量	40%削減	30%削減
省エネルギー車両の比率	82%	80%
単位輸送量あたりの列車運転用消費エネルギー	19%削減	15%削減
特定フロン使用大型冷凍機	100%削減	85%削減
駅や列車で発生する廃棄物のリサイクル率	45%	40%
総合車両センター等で発生する廃棄物のリサイクル率	85%(対象4年間平均値)	75%
設備工事で発生する廃棄物のリサイクル率	92%(対象4年間平均値)	85%
新幹線の騒音対策(今後定める第4次対策の対策期限までに)	第4次対策	住宅立地地域75dB
自営火力発電所からのNO _x 排出量	63%削減	60%削減

JR東日本グループ

	2008年度目標	2005年度目標(参考)
一般廃棄物のリサイクル率	43%	-
事務用紙の再生紙利用率	100%	単体で100%
毎年具体的な環境保護活動	森づくりへの参加等	-

削減目標は1990年度を基準。

1 2008年度達成目標:

従来の2005年度達成目標についてその進捗状況を踏まえ、2008年度達成目標として2005年1月に改定しました。また、この改定にあわせ、JR東日本グループとしての目標を新たに設定しました。